

スポーツ競技のライセンス制度の考察

鬼ごっこ総合研究所 研究部長 羽崎貴雄

Consideration of license system of sports competition  
(Onigokko Research Institute Research manager) Hazaki Takao

キーワード：ライセンス・体育協会・研修

【発表趣旨】

日本においてスポーツ競技のライセンス制度はそこまで歴史が古いものではない。日本体育協会が指導者資格を行っていたが、各競技のライセンスというものは多くはなかった。そんな中、2013年にスポーツ指導者育成事業の今後概ね5年間の方針を示した「スポーツ指導者育成事業推進プラン2013」が発表され「スポーツ立国の実現」のため、スポーツ指導者のさらなる量的拡大と質的向上を目的とするものとして日本体育協会がこれを発表した。そして、2013年より国体で監督を行う場合、公認スポーツ指導者制度に基づく指導者ライセンスの取得を義務づけている。

そこで今回は各スポーツ競技がどのようなライセンス制度を取っているのかを幾つか取り上げ、今後のスポーツの発展にどう影響していくかを考えていく。

下の表は各スポーツのライセンスの種類を書いた表である。基本的に左から順にライセンスの高度なものになっている。ただし、体育協会と各団体独自のものが存在する場合、そうでないものもある。

(表1)

サッカー	S級	A級	B級	C級	D級	キッズリーダー
バスケットボール	A級	B級	C級	D級	E-1級	E-2級
バレーボール	公認バレーボールコーチ	公認バレーボール上級指導員	公認バレーボール指導員	スポーツリーダー		
軟式野球	公認コーチ	公認指導員	成長期のスポーツ障害予防・指導者			
硬式野球	現状なし					
レスリング	公認スポーツ指導者					
陸上	JAAF公認コーチ	日体協公認陸上競技コーチ	JAAFジュニアコーチ	日体協公認陸上競技指導員		
テニス	JTA公認S級エリートコーチ	上級コーチ	コーチ			
テニス	上級指導員	指導員	上級教師	教師		
テニス	JPTA/USPTA認定プロフェッショナル1	JPTA/USPTA認定プロフェッショナル2	JPTA/USPTA認定プロフェッショナル3	JPTA認定プロフェッショナル		
ラグビー	トップチームコーチ	強化コーチ	育成コーチ	新スタートコーチ		

水泳	公認上級 コーチ	公認コーチ				
スポーツ鬼 ごっこ	S級	1級	2級	3級	準3級	キッズ リーダー

以上が一部ではあるが、各スポーツ競技のライセンス制度である。各スポーツによりライセンスの呼び方は様々ではあるが、(表1)にあるスポーツにおいては硬式野球を除くスポーツに現在指導者のライセンスがある。さらにサッカーに関してはゴールキーパーコーチのライセンスや、世代ごとのライセンスもあり、かなり細かく充実したライセンス制度になっている。サッカー協会はライセンス保持者も公表しており、2016年の発表ではS級450人、A級1633人、B級4459人、C級28497人、D級44617人、合計79656人いる。

(指導者ライセンス実施主体)

指導者ライセンスの実施主体に関しては、ほとんどのスポーツが各スポーツ団体と日本体育協会である。また、ほとんどのスポーツの指導者ライセンスは日本体育協会の公認スポーツ指導者制度を利用している。サッカー、バスケットボール、陸上、テニス、ラグビー、スポーツ鬼ごっこに関しては団体独自の指導者ライセンスを行っており、特に幅広い普及とトップ育成に関しては独自ライセンスを行っている。

【研修制度】

また、指導者ライセンスの他に、指導者のスキル向上や質の向上のための研修制度を取っているのはサッカーとラグビー、スポーツ鬼ごっこである。サッカーはリフレッシュ研修制度というものでライセンス保持者への研修を即活動をしている。ラグビーに関してはブラッシュアップ研修制度というものを取っており、指導者に対する研修制度を取っている。スポーツ鬼ごっこはスキルアップセミナーという制度で指導者の研修制度を取っている。その他のスポーツに関しては研修を行っているが、制度としての研修は見受けられなかった。

【考察】

基本的に現在ほどのスポーツも指導者のライセンスはある。しかし、そのライセンス制度に関しては各スポーツによってまちまちである。また、体育協会が行ってきた指導者資格以外の各スポーツ独自の指導者のライセンスに関してはほとんどの団体が2010年以降であり、ごくごく最近である。また、幅広い層への普及のためのライセンスに関してはサッカー、バスケットボール、テニス、ラグビー、スポーツ鬼ごっこが独自ライセンスにより幅広い人のライセンス保持者の養成を行っている。

今後、スポーツが学校教育から地域へ行く中で、このライセンス制度やライセンス保持者というのは非常に大事なものになってくることが予想されており、近年取り入れたスポーツ団体に関しては早急な対応が必要になってくることが予想される。より良いスポーツ環境が作られていくよう、各団体間の協力も大事になってくるのではないかな。

【参考】

日本サッカー協会 HP、日本テニス協会 HP、日本体育協会 HP、日本ラグビー協会 HP、日本バスケットボール協会 HP、日本ラグビー協会 HP、日本水泳連盟 HP、鬼ごっこ協会 HP、日本野球連盟 HP、日本レスリング協会 HP、全日本軟式野球連盟 HP、日本バレーボール協会 HP